



長 崎 県
中小企業家同友会

DOYU

ニュース
21

E-mail jimmu@nagasaki.doyu.jp
U R L http://www.nagasaki.doyu.jp

本部事務局 長崎市栄町1-20 大野ビル5F ☎(095)822-0680 FAX (095)824-4623

「不離一体・中小企業経営に役立つ同友会活動の実践」 ～同友会活動が企業を支え、地域を育てる～

第49回 中小企業問題全国研究集会が 2019年2月に長崎で開催されます!!



●日 時 **2019年2月21・22日(木・金)**

●会 場 ホテルニュー長崎(分科会、懇親パーティー、2日目全体会)、サンプリエール
ザ・ホテル長崎BWプレミアコレクション、ルークプラザホテル(分科会)

●参加費 23,000円 ●規模 1,100名 ●分科会 12分科会

あと **195** 日!!

※8月10日現在

**2日目の
講師決定!!**

「平和へのメッセージ」

長崎市長 **田上 富久 氏**

「記念講演」

(株)A and Live 代表取締役
(株)V・ファーレン長崎 代表取締役社長
(株)ジャパネットたかた 創業者

高田 明 氏

目次

第49回 中小企業問題全国研究集会 in 長崎 開催案内	1	2018年度 全国事務局員研修会 参加報告	17
各界からの提言	2	事務局企業訪問	18
中同協 第50回 定時総会 in 宮城 参加報告	3	新入会員紹介	19
7月例会報告	7	会員活躍	20
ダイバーシティ委員会 第10回例会 参加報告	13	理事会報告	21
2018年度 第1回 新入社員フォローアップ研修 参加報告	14	会員動向・会員数	22
ダイヤモンドクラブ総会・第1回例会 参加報告	14	9月例会案内	23
ブライアント(株) 経営計画発表会 参加報告	15	第25回 経営フォーラム in SASEBO 開催案内	24
(福)むすび会 経営計画発表会 参加報告	16		

各界からの提言

長崎県信用保証協会 会長 田中 桂之助



プロフィール

- ・昭和 52 年 4 月 長崎県 採用
- ・平成 14 年 4 月 同 政策調整局 政策評価課長
- ・平成 16 年 4 月 同 総務部 財政課長
- ・平成 18 年 4 月 同 政策企画部長
- ・平成 20 年 4 月 同 知事公室長
- ・平成 23 年 4 月 同 副知事
- ・平成 26 年 3 月 長崎県 退職
- ・平成 26 年 6 月 長崎県信用保証協会 会長就任

長崎県中小企業家同友会におかれましては、地域の中小企業の成長・発展のためにご尽力しておられることに心から敬意を表します。また、来年は全国大会を長崎県で開催される予定とお聞きしています。ますますのご発展をお祈りしております。

さて、私ども長崎県信用保証協会は、中小企業の皆様が金融機関から事業資金を借入れる際に、公的な保証人となることにより、スムーズに借入ができるよう設立された公的機関です。

近年は、この公的保証機関としての機能に加え、創業・経営等の支援にまでその役割を広げ、様々なサービスで事業者の皆様を積極的に支援しています。

創業支援については、創業セミナーなど創業前の相談・情報提供から創業に当たっての有利な保証制度の提供、そして創業後の専門家派遣などのフォローアップまで一貫したサービスを行っています。経営支援については、保証協会が中小企業と金融機関等をお繋ぎして、関係者が一堂に会して経営改善に向けた協議を行う経営サポート会議のほか、中小企業の皆様の様々な経営課題を解決するための専門家派遣や経営改善計画策定の支援などのサービスを提供しています。

このDOYUニュース21の8月号には、保証協会をご利用の方だけでなく利用されていない方も、無料でご利用いただける経営診断のサービスをご

紹介する資料をお付けしています。これは、全国的なデータベース機関に蓄積された約100万社の財務情報を基に、信用力と財務の面から、利用企業の信用力の相対的な位置付け、財務面の強み弱み、業種内・県内・売上規模内での順位、そのランクが低い場合の一般的な原因と改善策などの分析結果を提供するものです。事業経営のご参考には是非ご利用ください。

保証制度については、中小企業の皆様が使いやすい、有利な制度を目指して制度の創設、改正を積極的に行っています。

この4月からは、小規模事業者向け保証制度の保証限度額を従来の1,250万円から2,000万円に拡充したほか、創業保証の限度額拡充、事業性評価保証「みらい」の創設などを行いました。

このほか各地方公共団体の制度では金利や保証料が低く設定されていますのでご利用しやすくなっています。

詳しくは協会ホームページのほか、各金融機関や信用保証協会の窓口にご相談ください。

長崎県信用保証協会は、皆様のお手伝いができるよう、行政、金融機関、関係団体と連携して今後とも積極的に努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

【長崎県信用保証協会ホームページ】

<http://www.cgc-nagasaki.or.jp/>

中同協 第50回 定時総会 in 宮城 参加報告

開催日：7月5・6日(木・金) 会場：江陽グランドホテル

第1分科会

いま情勢は中小企業に追い風か逆風か？

～風潮に流されない経済指標の読み方、考え方～

立教大学 名誉教授 菊池 進 氏
中同協企業環境研究センター 副座長

代表理事 金井 政春

早いもので東日本大震災から7年が経過した宮城にて記念すべき中同協第50回定時総会が開催されました。来年2019年 中同協50周年に向けての新しいロゴマークも議案書の表紙に掲載されて、これからの同友会の更なる発展への思いを強く感じとりました。

総会では昨年度の振り返りと本年度の活動方針が報告されました。昨年度の振り返りでは①人材不足・採用難が深刻化する中、共同求人・社員教育活動が全国的に広がったが学生の参加が少なく苦戦している。②経営指針成文化と実践の手引きが発行され、各地同友会では経営指針成文化運動の見直しが行われてきた。③中小企業振興基本条例が334自治体で制定され、1年間で73自治体増えている等の振り返りがありました。

本年の活動方針は①同友会運動の輪を広げ、全国5万名会員達成に向けて運動を進めよう。②経営指針の作成と見直しを進め、全社で将来のありたい姿を共有し、社員と共に実践に取り組もう。③労使見解の精神に基づき、就業規則をつくり、整備・見直しをして、魅力ある企業づくりを進め若者に選ばれる企業づくりをしよう。又、教育機関や自治体・地域とも連携して人材を育て、地域に残す運動を進めよう。④後継者の育成と事業承継は大きな課題であり、後継者を育成する取り組みを進めよう。⑤環境経営の世界的な潮流を



ふまえエネルギーシフトの学習と実践に取り組みましょう。⑥中小企業憲章と中小企業振興基本条例の制定・推進運動で多くの自治体で条例制定を実現し地域社会・経済を支える取り組みを進めよう。⑦役員・事務局の世代交代への計画的対応を進め歴史と理念を継承するための系統的な学びの場をつくりましょう。以上の7項目が掲げられました。私達長崎同友会ではエネルギーシフトの学習と実践については遅れを取っていますが、その他の6項目については他県に引けを取らない活動、運動がなされていると思いました。本年度も更なる強化をはかり会員の企業づくりに役立つ長崎同友会を目指したいと思います。

分科会の報告では、中小企業にとっていま情勢は逆風と感じている企業が多い。人口減少、事業所の動向には注視しなければならない。2014年と2016年との事業所数を比較すると20%以上減少している。この様な時代の流れの中小企業を継続できるのは、企業づくり、同友会づくり、地域づくりをしっかりと学び実践している同友会型企業と報告されました。

受動的にならず積極的に取組む企業にはやがて追い風が吹くとの報告に勇気を貰いました。

第2分科会

【中同協設立50周年へ】同友会の歴史と理念

～同友会運動の歴史と理念に学び、未来を展望する～

(株)ヒロハマ 代表取締役会長 広浜 泰久 氏
中同協会長

(株)佐元工務店 代表取締役会長 佐藤 元一 氏
宮城同友会相談役

副代表理事 横田 耕詞

第2分科会では、まず第1部として中同協広浜泰久会長より同友会運動の歴史と理念形成の道筋について報告がありました。

1969年、中同協が設立されました。1974年の長崎全研では「決して悪徳商人にはならない」とい

う声明文が発表されました。1975年には「よい会社をつくろう」、「よい経営者になろう」、「よい経営環境をつくろう」という三つの目的をめざし「労使見解」が発表され、1990年には中同協第22回定時総会(香川)にて「三つの目的」「自主・民主・連帯の精神」「国民や地域とともに歩む中小企業をめざす」の三つを同友会の基本理念として明確にしました。

そういった同友会理念が出来るまで先輩たちが苦勞された歴史や、今の我々同友会会員は先輩たちが苦勞して築き上げてこられた素晴らしい同友会理念の歴史の恩恵を受けていることの有難さ、歴史や理念、考え方を学ぶ、すごくいい機会でした。

また、第2部の佐藤さんの報告では、同友会への入会のきっかけは、入会案内で声を掛けられたときに「社

長は誰でもなれるが、経営者は誰でもはなれないよ」という言葉で誘われ、経営者になるために同友会で勉強しようと入会されたそうです。なるほど、同友会は社長ではなく経営者を育む場、この言葉を仲間づくりで使わせていただこうと思いました。また同友会入会初期は、毎年青年経営者全国交流会に参加されたり、経営指針書を作成されたりしたそうです。しかし、なかなか社員に浸透できなかったりするなかで、再度経営指針書を学

ぶ機会があり、社員の成長なくして会社の発展はない「労使見解」に学び、生まれ変わった経営理念をつくられました。建設業から快適生活環境創造業の理念が社員にも浸透し、仕事も順調で、今では地域と共に歩まれている会社の実践事例も聴くことができました。

71歳でも常に謙虚に学ばれ、地域に必要とされ、当てにされる会社、同友会運動をされていることに感銘しました。

第9分科会

山と海をつなぐワイン

～震災後の産業創出と交流人口拡大の新たな価値づくり～

(株)仙台北保醸造所 代表取締役 **毛利 親房 氏**

宮城県漁業協同組合志津川支所 戸倉出張所
カキ部会 部会長 **後藤 清広 氏**

大村支部 徳田 信義

全体会終了後、直ぐにバスに乗り込み車内でテーマ及び議案との関連を確認し、これ迄の経緯の報告がありました。40分程で現地会場に着き今回はパネルディスカッション方式で報告がありました。座長の小野寺氏がコーディネーター、毛利氏と後藤氏がパネラーでした。場所は宮城県仙台市にある秋保温泉近くの古民家で報告がありました。

毛利氏は震災まで、設計士として県内沿岸部を主に設計を数多く手がけていたそうです。

震災後、地域おこしのため、産業創出、交流人口拡大目的のため何ができるか考え、ワイナリー設立を計画したそうです。何故ワイナリーだったのかというとその地域にワイナリーが有ったのが震災で流され廃業し、それでワイナリーを地域から無くしてならないとの思いから計画したそうです。ぶどうの生産法を学び



2.5ヘクタールの土地を求めぶどうの生産を始めワインの製造法を山梨県まで行って学びました。そして、ワイン製造所とワイン販売所とレストランを併設し交流人口拡大に貢献しているそうです。

また、後藤氏はカキ養殖を営んでいましたが震災の時、養殖地域のいかだが全部流され再建の為に奮闘し、漁協のカキ部会の部会長に成り国内初の水産養殖管理協議会のASCの国際認証を取得したそうです。当初は部会員から批判をうけたそうですがカキの生育が震災前は製品出荷迄3年かかって居たのが1年で出荷出来る様になり、やり方は間違っていなかったとの実証が出来たそうです。

毛利氏はぶどう生産の担い手育成と、後藤氏と連携し、ワインとカキのセット販売を図ったり、カキ養殖のいかだでワインを1年間寝かすとワインが美味しく成る事が分かったりして、産業創出と交流人口拡大の価値づくりに奮闘しているとのことでした。

地域を生かし、地域企業と連携し、地域の為どんな事をやれるか考えさせられました。

第10分科会

白石市中小企業振興基本条例の活用と実践

～中小企業の視点から地域課題の解決を目指す～

白石市長 **山田 裕一 氏**

(有)アトリエデリス 代表取締役
宮城同友会白石蔵王支部理事 **佐々木文彦 氏**

政策委員長 時 忠之

全国における中小企業振興基本条例制定後の成功事例を学びたく、宮城総会時に開催された標記分科会へと参加した。見学分科会ということで、メイン会場から貸切バスにて30分ほどかけて目的地の「しろいしSunPark」に赴いたが、その道中に白石市において振興条例が制定されるまでの経緯を聞いた。

それは2011年の東日本大震災がきっかけとな

り、自分たちの地域の活力増には何が必要かを中小企業の日線で考えるようになったとのこと。模索している中で北海道別海町が振興条例によって活性化したとの情報を得て訪問。別海町長に「どんな地域にしたいか」を尋ねたところ「同友会に聞け!」との返事が返ってきたとの逸話が印象的であった。

その事例をもとに、初めに白石市では地元大学と連携して地域分析(調査)を行ったところ未来の人口減少や商圈崩壊などのまちの存続を脅かすような様々な問題点が浮き彫りになる。この調査結果を携えて行政に「官民一体となって解決すべし」と打診したところ行政もすぐに了承。振興条例制定への道筋が開かれたとのことであった。

ここでまずは地域課題の正確な分析をもとに問題点を明らかにして、行政とその課題を共有することが重要と理解した。

そして分科会会場に到着。ちなみにここは振興会議から提案され6次産業化事業による地域振興を狙いとし建設された大変立派な施設であった。市長からは本施設の紹介はもちろん、「行政は条例がないと何もできない」との発言があり、振興条例が行政の強みとなっていることを聞かされる。加えて本施設の構想が市長当選時のマニフェストとして約束されたものであったが故に市長としても思い入れが強いものであり、だからこそ実現スピード（振興条例制定から振興会議提案の事業遂行）が早かったものと推察される。これは一つの大きなヒントかもしれないと感じた。

第13分科会

【中同協設立50周年へ】魅力ある企業の輪を広げよう

～同友会運動に確信をもち5万名会員の達成を～

(株)エステム 名誉会長
中同協相談役幹事

鋤柄 修 氏

モルツウエル(株) 代表取締役
島根同友会副代表理事・共同求人共育委員長

野津 積 氏

事務局長 山田 幸司

長崎同友会の今期の活動方針の大きな柱、それは何と言っても「2019年2月の全研までに会員数1,000名達成」です！

そのために、2017年度純増率全国一位の島根同友会の事例を学ぶために参加させていただきました。

約三分の二は経営体験報告をされた野津さん。正直な感想として、まさにいい意味で裏切られた内容でした。なかなか仲間づくり活動の具体例が出てこない。しかし、野津さんの普段の暮らしこそが仲間づくりの活動そのものだったのです。

故郷が無くなる危機感に対する熱い思いを常に周りに伝えることが、自然と仲間づくりに繋がっていったのだと私は確信しました。野津さんの生き様は、まさに氏が好きな言葉として掲げた「先憂後楽」、そしてミッションは「ふるさとまもり」。

報告には、トップの決断・覚悟・熱意、郷土愛が溢れていました。そして必要なこととして挙げられたのは、「ふるさとをもっと深く知る」そして「地域にもっと感謝」ということです。

全国的には、介護施設に真空パックの食材を卸し、

またこの施設の運営者として「一般社団法人みのり」が設立され、このメンバーに振興会議構成員であり同友会会員（報告者の佐々木さんもその一人）が就任する。このことから分かるように、同友会が理想を打ち出し、形を作り、それを動かしていくまでの覚悟を持って取り組むことが大切だと思った。

行政と中小企業家がともに「あてにしあてにされる関係」を築くために、中小企業振興基本条例を制定し、その行動主体としての振興会議を官民の接着剤として活用することが、これからの地方創生には必要であるとお伝えし報告とします。

地域では365日毎日2回、安否確認を含め、高齢者へのお弁当を必ず届けているモルツウエル(株)。地元では、山に住む片道徒歩15分のお客様へも対応されているそうです。

野津さんが金子みすゞの「土と草」から、「土になる決意」を固められたと伺った際は、目頭が熱くなりました。「地域活性化＝人づくり」そう野津さんは締めくくられました。

(参考) 2017年度 純増率

1位 島根同友会 2位 長崎同友会

・島根 期首223名→期末300名 77名増
純増率34.5% (77/223)

・長崎 期首602名→期末684名 82名増
純増率13.6% (82/602)

二日目は、恥ずかしながら初めて耳にした“鼎談”。今は当たり前存在すると言える「中小企業家同友会」ですが、何もない所から今に至るまでを創りあげて来られた先人の皆様に大いなる敬意と感謝の念を忘れてはなりません。

久しぶりの全国大会。しかし、いつもと違って、今回は大きな使命がありました。それはもちろん全国大会の設営についての確認と長崎全研のアピールです。このアピールに関しては、毎回、会場の作り、参加メンバーが違うことから戸惑うこともある様ですが、その団結力は回を追うごとに間違いなく高まっていると伺いました。

参加させていただきありがとうございました。今回得たことを生かして参ります。

第14分科会

会内外をつなぐコミュニケーションツールとして、 会員参加型の機関誌づくり

～報告事項・会合案内で終わらせない
機関誌づくりの試行錯誤を積み重ねて～

光栄商事(株) 代表取締役
東京同友会副代表理事

内田 勲 氏

事務局 森川 健吾

入局して初めての全国大会に参加させていただきました。報告者の内田さんからは、東京同友会で広報部長として機関誌の発刊に携わってこられた経験や東京同友会広報部の様々な取り組みについてご報告いただきました。

東京同友会では、機関誌発刊にあたって、東京同友

会第8次ビジョンをしっかりと落とし込んだ内容とすることを方針としており、同友会活動を学ぶことができる一冊になっています。例会に参加していない会員の方が機関誌をファイリングして学習資料として活用していたという事例は大変印象的でした。

また、人に分かりやすく伝える練習を行う「文章教室」、同友会のメディア露出が増えた「記者懇談会」、行政との連携が深まった「区長・市長の訪問企画」などの企画は、東京同友会の運動発展には何が必要なのかという視点から生まれたのではないかと感じました。長崎同友会においても情報広報委員会が果たす役割について今後改めて考えてもよいのではないかと思います。

グループディスカッションでは、誰に対して発信す

るのか、広報の目的を明確化させることの重要性や広報委員会での活動を通して同友会全体の動きが見えて学びが深まったこと等が改めて確認され、広報活動をいかに自社の経営に生かすか、熱い議論が交わされ、全国大会の熱気を感じるグループ討論でした。

2日目の鼎談では、高度成長期に生まれた同友会の意味から始まり、それぞれの時代背景に応じた同友会運動の発展や理念が出来上がってきた過程、そしてこれからの発展の展望について学ばせていただきました。

また、来年2月に開催される長崎全研のPRもさせていただくなど、初めてづくしの2日間でした。参加させていただきありがとうございました。今後さらに学んでいきたいと思っています。

第16分科会

青年部（後継者）活動から等身大で学ぶ、 同友会理念と経営姿勢

～歩み始めた青年部（後継者）が描く東北の未来～

光栄電気通信工業（株） 代表取締役
福島同友会郡山地区理事

鳴原健太郎 氏

杜陵テクノ（株） 代表取締役
岩手同友会青年部部会長・柴波支部幹事

川村 武司 氏

佐藤食品（株） 代表取締役
秋田同友会青年部部会長

佐藤 賢一 氏

佐世保支部 松尾 慶一

分科会は先月が女全交でしたので次は若者をターゲットに第16分科会に参加しました。3人の報告者は、東北青年経営者フォーラムがきっかけで共に学び始めたそうです。

鳴原さんは、2007年42歳で帰り福島同友会の後継者塾で学び始め、同友会にハマったのは3年前の福島同友会沿岸3県合同例会でした。青全交で顔見知りと交わる中に連携を考え出したが、決定的に変わったのは、青年部なんていないだろうと言われてきたのを茨城青全交の二次会に参加した東北の皆さんが若者の思いを伝えたら、先輩達から凄く理解していただいたこと。これからの取組として10年ビジョンに福島を自慢できるようにしよう。会社で働く人が幸せや喜びを感じてもらうことが自慢できるようになるのだという報告には感動しました。

川村さんは、1999年、22歳で帰り家業を手伝い35歳で父が闘病の末他界、37歳で同友会に入会し、経営指針書作りを決意。岩手後継者塾から岩手青年未来塾の復活へと繋がり青年部が発足、青年部定時総会・特別例会を企画したら理事会から否決され、青年部は現状認識が甘く好き勝手な活動をしてると指摘される。そこで青年部の存在自体が本当に必要なかと話し合い、自分たちの事だけでなく地域（主体者）の事も考えるようになりました。更に自県を活性化さ

せるこれからの若い経営者を引き込むためにどうすべきか模索し岩手青年部会ドリームグループを結成した結果、主体者が増えてきました。

佐藤さんは2008年、入社した時に父が社長に就任するもリーマンショックで赤字に転落。2010年、秋田同友会に入会し翌年、経営指針策定セミナーを受講。2009年に後継者部会が発足し2012年青年部会あすか会スタート。そこで岩手同友会 川上塗装の川上さんの講演会で大変革をもたらす。鳴原さんから言われた、動いている人には勝てないよね！に共感しました。自分が動いて知り合って結果ネットワークを広げられる人は素晴らしいと実感しました。

コーディネーターである宮城同友会の2代目青年部会長の佐藤さんからは、県を跨いで事を成そうとした時に、親会や事務局とのトラブルが発生し、我々が良い事をしようとしているのに、何故うまく行かないのか苦悩する。しかし、役を引き受けたりして、外に出ないと受けられない刺激があると知り自分の地域に居てばかりでは見えない事が多い。だから動かないといけない！

最後に、鳴原氏より3名に本音を問うと役や仕事を貰って本当に良かった。更に東北の未来って何だろう？と言う課題を出し今3県の青年部が6県に拡大して連携を図り青年部活動が活性化することだ。それは、自分たちの地域の得意不得意を知り自分たちで考えていく事なのだと締めくくられました。

19時からの懇親会では、全研実行委員長の特製名刺を配って回り300名近くの方と名刺交換しました。そして懇親会オープニングで披露された伊達武将隊の関を拝借しまして、長崎全研に皆さんが来てくれます様にエイ・エイ・オーの関を挙げました。

翌朝9時からの全体会では、中山幹事長の5万名への力強い思いを聞けましたし、大先輩方3名の「時代を創造し牽引する同友会運動の歴史と理念」その先見性と普遍性のお話を聞けました。昼食後に中同協幹事会が13時半から始まり、何とか全研の報告を済ませて会場を後にしました。

長崎浦上支部 例会報告

日 時	7月18日(水) 18:30～21:00
会 場	長崎新聞文化ホール・アストピア
テ ー マ	波佐見焼を世界へ！地域ブランドの経営戦略 ～お客さま目線で考えた発想転換！競争しながらの共存共栄の道～
報 告 者	白山陶器(株) 代表取締役 松尾 慶一 会員(佐世保支部)



松尾さんは昨年度まで県の代表理事を10期も務めてこられました。代表理事として多忙な中であっても会社の業績も順調にあげており、その秘訣は何か、と出席者たちも興味を持って報告に聞き入っていました。

白山陶器(株)は、1779年創業、今年で240年目を迎え、松尾さんはその伝統ある会社の8代目になります。先代の社長が松下幸之助の「これからはデザインの時代」という言葉に感銘を受け、差別化のためにロゴマーク等のデザインを工夫し始めたそうです。

また1961年からグッドデザイン賞等に出品をして、昨年までに150点以上入賞を果たしています。自社のブランド化に成功し、1980年頃には業績もピークを迎えますが、1990年代には、徐々に業績が落ちてきました。そんな厳しい状況下、1995年に代表取締役に就任しました。就任後も2～3年は業



績不振で経営危機に陥りましたが、打開策として長崎県の補助金を活用して新商品を開発し、世界中を廻ったそうです。

そこで気づいたのが、「良い物を作って発信すること」「やればできると経営者が信じること」の大切さでした。以後は負のスパイラルから希望へのスパイラルに好転し、2003年には南青山直営店出店、2011年には淀屋橋直営店を出店と順調に事業を展開してきました。

また同友会には、1996年に入会。翌々年度からは様々な役職を歴任、2008年度から昨年度まで、県の代表理事を務めました。

参加者からは「社業と代表理事の両立は大変だったのでは？」との質問もありましたが、「同友会活動は楽しく、大変とは思わなかった」と仰っていました。グループディスカッションでも報告に感銘を受けた出席者が多く、経営者が覚悟をもって前向きに取り組むことの大切さや、自社の強みを持って周知することの大切さを改めて実感した例会となりました。

(文責 北川 亮)

長崎出島支部 例会報告

日 時	7月25日(水) 18:00～20:30
会 場	サンプリエール
テ ー マ	野田洋市と変革を語ろう！！納涼例会 ～時代の流れに伴いカメレオンのように変化を続ける男～
報 告 者	(株)野田武一商店 代表取締役 野田 洋市 会員(佐世保支部)

今日は佐世保支部からも多数参加いただき63名と最近では盛況な例会でした。



初代が佐賀市で荒物屋として開業、二代目が荒物に加え日用雑貨、三代目が日用雑貨に加え線香燭を扱販。四代目がオリジナル線香燭の企画制作をし、五代目の野田さんは、回収した燭のリサイクルに着目し、障がい者就労の事業所を立ち上げ新事業に取り組み、また地元の仲間とコラボした商品などを開発し積極的に事業展開されています。

経営者として移り変わる世の中のニーズに対して、



同友会やいろんな知人との出会いやご縁から新事業に気づき変化を続ける経営手腕は、野田さんの人柄と発想の豊かさからくるものだと学びました。

これからの事業展開としては、九州一円、西日本とリサイクル事業の拡大を目指しています。

今回は新しい試みで報告をディスカッション形式で



行い、聞く側に分かりやすく「伝える」を目的として好評のようでした。

グループディスカッションでは「経営指針」について話し合わせ、改めて大事さの確認や気づきをされた会員もいて時間が足りないなどの意見もありました。今回は納涼例会ということもあり浴衣や甚平などラフな格好での開催でしたが、しっかりとした例会が出来たと思います。

(文責 田中 清隆)

大村支部 例会報告

日 時	7月26日(木) 18:30～21:30
会 場	長崎インターナショナルホテル
テ ー マ	官×民×創×論(カンミンソウロン) 2018 ～キャリア教育の可能性～
報 告 者	大村市長 園田 裕史 氏 NPO法人 家族支援フォーラム 理事長 米田 順哉 氏(愛媛同友会 代表理事)



「官×民×創×論」は今回で3回目を迎えました。報告者の米田さんには愛媛県から来ていただき誠にありがとうございます。

米田さんの報告では、子ども達が、たくましく生きていく為の職場体験が愛媛県から始まった取り組みと聞き驚きです。

若い方々が県外へと就職していく中、地元での職場体験が中小企業の直面している人材不足問題への解決の近道だと感じました。職場体験に地域の大人、家族、



企業が積極的に参加し、大村の子供を育てていく為にキャリア教育を促進する。そして、勤労の尊さや知識・技術・技能に触れ学ぶ事の意義を理解し自身で進路や生きる道を選択する力を身につけさせる事で子ども達は社会的ルールやマナーを学び、地元愛が生まれ誇りを持ち地元企業に残っていくのではと感じました。

園田市長が色々な方々の出会いとの影響によって自分の将来が定まっていくのだと、お話しされました。私ども中小企業家も子ども達の将来のお手伝いが出来ればと思った例会でした。

最後に私も中学3年生の息子が居りますが、今、受験、将来の夢、進路について悩んでいるさなか、とても貴重な話を聞けて親として良かったと思いました。

(文責 比良 哲也)

諫早支部 例会報告

日 時	7月18日(水) 18:30～21:30
会 場	諫早観光ホテル 道具屋
テ ー マ	実行力 ～食と海外と外国人～
報 告 者	(株)わかたむ 代表取締役社長兼CEO 若杉 和哉 氏



諫早支部の7月例会は、「諫早でこんな素晴らしい事業をされている方を、もっとたくさんの人に知っていただきたい。」という座長の田浦さんの熱いご紹介のもと「実行力」をテーマに、(株)わかたむの若杉氏より報告いただきました。

若杉氏は2011年9月に(株)わかたむを東京で設立され、2016年に本社を諫早へ移転。御親族が経営している(株)菓秀苑 森長の販売戦略や商品開発などの業務支援、(株)杵の川の日本酒の海外展開支援、翻訳といったインバウンド戦略支援などのコンサルタント業務の傍ら、長崎留学生研究会を設立され技能実習制度(外国人労働力)の導入支援などにも取り組んでおられます。

主に森長での「半熟生カステラ」大ヒットの体験を



基に、「食・海外・外国人」を軸とした事業展開をご紹介いただきました。

その中で「実行力+行動力=結果」こそが重要とされました。バスケットボールを例に「シュートを打たないと何も始まらない。良くも悪くも、結果を出す事が最初のスタートであり、結果を出さなければ次に進めない。良い結果が出たなら伸ばし、良い結果が出るまで原因追究して継続する。」という言葉でした。特に新しい事を実行する際、行動力と共に、想いの強さや熱意を後押しする度胸や覚悟が必要だと改めて感じた報告でした。

グループディスカッションについては、外国人雇用時の準備と戦略をテーマに行いました。今後の労働力不足を補う上でも、検討すべき内容であり、若杉氏も積極的に推進されております。現在外国人雇用している方、検討している方など様々な意見があがりました。

外国人が持っているスキルは十分に発揮して欲しい反面、言葉の壁や、文化の違いなど課題が多いことを感じました。しかし先に学んだ、実行力と継続する力、度胸を持って取り組む事が大事だと思いました。

(文責 竹野 由一)

島原支部 例会報告

日 時	7月23日(月) 19:00～21:00
会 場	HOTEL シーサイド島原
テ ー マ	失敗を繰り返した男だから言える事 ～波乱万丈現在進行形～
報 告 者	(有)思案橋観光 取締役社長 山口 憲男 氏(元長崎同友会会員)

7月の例会は昨年度まで県例会委員長として理事をつとめていたものの諸事情により退会された山口氏に経営体験報告をしていただきました。

山口氏の波乱な人生はサラリーマンだった20歳の1800万円の借金から始まります。そして、多くの業種で起業し大成功といえる程の業績をあげます。しかし、その全ての事業は長く続かなかった事も赤裸々



に話していただきました。ただし、今回の経営体験報告では失敗談の話だけではなく、なぜその時に成功できたのか成功のノウハウを具体的に紹介していただき仕事の進め方や考え方に経営の学びを大いに感じました。



山口氏は23歳で始めた水道修繕工事の仕事では毎月200万円もの純利益をあげます。同業者より何倍もの売り上げをあげた理由は単に作業代金を高くするのではなく逆に良心的な価格で仕事量を増やし、客単価を高める方法です。そして笑顔のサービスとコミュニケーションで顧客満足度を高めリピートや紹介を増やしました。

25歳で起業した呉服店では物を売るのではなく体験を買ってもらうコンセプトで年商6億円の業績をあげます。なぜバブルが崩壊して着物離れした時代に最も売れないであろう着物を売る事ができたのか、その方法と発想には驚くものがありました。

31歳でなんと呉服会社は倒産し破産に追い込まれます。しかし、山口氏は一文無しで健康食品の通信販売を立ち上げ、2年後には年商2億円と急成長をしま



す。なぜ、一文無しなのに起業できたのか、どうやって売り上げを伸ばしたのか、その方法と実行力には驚かされます。この時の収益で行った多角経営の一つに私達が知っているクラブ子悪魔を代表する思案橋観光グループがあります。

「なぜ成功したのか?」、「なぜ継続できなかったのか?」全ての事業に共通した理由と原因を山口氏は同友会での学びの中から答えを導きます。さらに報告資料を作成するにあたり自分と向き合うことで新たな「気づき」を発見した事も報告していただきました。

山口氏の意向により報告の具体的な内容やエピソードは公開できませんが依頼があれば愛知県から報告にきていただけるそうです。

(文責 山田 崇生)

佐世保支部 例会報告

日 時	7月17日(火) 18:30 ~ 21:00
会 場	アルカス SASEBO 3F 大会議室
テ ー マ	法律家として
報 告 者	佐世保フロンティア法律事務所 代表弁護士 渡会 祐二 会員



7月の例会の報告はタイトル通り佐世保のマチを奔走している事をとても感じる内容でした。

最初に長崎県の弁護士事情を報告され、現在は長崎県全体で160名の弁護士が登録をしており、その内



佐世保支部(県北)34名、22事務所となっているそうです。渡会さんが弁護士登録した2006年当時は長崎県全体で80名弱、佐世保支部では14名の登録で、現在は倍以上の弁護士の登録数になっており、いかに2006年当時は弁護士が不足していたか、現在は弁護士が多くなり各弁護士事務所は特色を出していかないといけないと報告されていました。

今まで依頼を受けた具体的な事例も報告され、最も深く印象に残った事例として「暴力団事務所撤去事件」の事を話されました。この事件は佐世保市の春日町に暴力団が事務所を造り要塞化していたという事件です。渡会さんは当時は振り返り、やはり怖さはあったと話されていました。警察や地域の方々、ご家族の

協力を得てこの事件を無事解決されたそうです。

実は私は当時その暴力団事務所のすぐ近くに住んでいて、この事件はずっと見ていました。その当時を思い出すと、やはり私の近所からも不安な声を聞いていました。私自身も不安でした。解決したときは、すごく安心したことを覚えていますので、最初に渡会さんを見たときはすぐにわかりました。とても感謝しています。

その他にも「寄り添う弁護士」として借金問題、「更生を願う弁護士」として刑事事件の話をされました。刑事事件の話の中で被告人の弁護の時には、「やるからには立ち直ってほしい。被告人のために活動できる事」と言われ、すごい弁護士だと思いました。

現在、渡会さんの事務所は5名の弁護士が在籍して

いらっしゃいます。

「アクセスが良い事務所」「スピーディ・誠実な対応」を基本とし、複数の弁護士がいる事を活かしミーティングを密に行い複数の弁護士が知恵を出し合い依頼者の問題を解決していくことが出来る。「みんなで見るから違う見方が出来る」と言われたことが印象的でした。

同友会も会員の経営の問題を赤裸々に話し先輩の経営者や若い経営者年齢に関係なく意見を述べ合います。この「みんなで見るから違う見方が出来る」という事は同友会と同じ考えではないでしょうか。

(文責 府川 正樹)

北松浦支部 例会報告

日 時	7月19日(木) 18:30~21:00
会 場	サンパーク吉井
テ ー マ	事業承継後の10年ビジョン
報 告 者	(有)中村商事 代表取締役 中村 寿弥 会員



佐世保市鹿町町で養殖魚用飼料・資材販売、養殖用網染め事業を展開されている「(有)中村商事」代表取締役の中村さんは、お父様が1983年に創業、2018年に代表を交代されています。お父様が創業されてからの自社の歩みと事業展開、2017年度に北松浦支部で行った経営指針実践セミナーで成文化した「事業承継後の10年ビジョン」について報告されました。

中村さんが3歳の時、当時専業農家で生計を立てていたお父様は40歳、子供は3人、収入が少なく生活が厳しかったこともあり、収入の足しになればと飼料販売店の下請けを始めることにしました。中村さんは高校卒業後程なくして入社、小学生の時から手伝いをし、飼料販売の仕事に触れていたそうで、当初は手伝いの延長のようなお気持ちだったそうです。2002



年、お父様は仕事ぶりや人間性をお客様に評価され結果が出ていた為、某飼料メーカーと代理店契約、法人化をされ現在の(有)中村商事を設立されました。その後は、売上げの4割近くを占めていた取引先の廃業等困難もありましたが、現在の事業には欠かせない

存在の弟さんの入社、現在柱となりつつある競合の少ない網染め事業(※網染め事業とは:養殖網を、銅を主成分とした有機溶剤により養殖網の染加工を行い、網への付着生物の除去をすることにより魚の成長を良くし病気を低減、網の耐用年数を伸ばし網替え作業の低減等メリット多数。養殖業者が、今までコストと手間を掛け自社で行っていたことを(有)中村商事が低価格で実現した事業)を開始したりと、着実に、また積極的に事業展開をされてきました。

会社も年々増収増益を実現、お父様も75歳となり冗談半分で代表交代について話をする機会が増えていたそうです。数年前より中村さんが現場をすべて仕切っていたこともあり、2018年代表を交代されました。中村さんは自社のこれから、10年後の自社について「多くの方にもっと美味しい魚を食べてもらいたい」というお気持ちで、「魚に関するサービスすべてに対応できる会社」を目指し明確に経営理念と数値目標を定められています。

これまで自社を通して関わってこられた方々や、魚に対する情熱、事業に対する行動力に大変感動し学びをいただきました。今後も10年ビジョンに向かって邁進されるものと思いました。

(文責 上野 健太郎)

五島支部 例会報告

日 時	7月18日(水) 18:30～21:00
会 場	福江総合福祉保健センター
テ ー マ	26歳で社長へ。これまでとこれから
報 告 者	(有)五島食産 代表取締役 山本 一徳 会員



報告者の山本さんは、父が1978年「製菓やまもと」を創業した年に生まれ、その後2004年に法人化、(有)五島食産として26歳で初代社長に就任しました。

山本さんはお客さんと接する配達が好きだが、製造は嫌いという性格で、小さい頃の夢は船の船長になる事でしたが、父の説得に押され高校卒業後に法人化前の父の会社に入社。そして法人化の際に、26歳で代表取締役という肩書きに。きっかけは父の「早かれ遅かれお前は社長になっとやけん、どうせなら初代社長ばやれ。26歳で社長になっても50歳で社長になっ



ても同じだけ苦労する。俺の目の黒いうちにやっ
とけば色々なアドバイス
できるけん」という言葉
で決断したそうです。

父の言うとおりに、設立当初は大失敗も多く、何も分からなかった経済の勉強でも苦労し、そしてお客様からのクレームの経験から学び、そしてそこからクレームやミスがゼロになるまでの努力・対策方法を話されました。

社長になるのが早かった事が功を奏したのか、これからはメインの蒲鉾製造業以外に農業や飲食店経営の準備を進めているそうです。どこの事業主さんも同じ事かもしれませんが、仕事上のミスを減らすことは、無駄な時間を削減する事に繋がります。そしてミスを減らすには、いくら忙しくとも「確認」を徹底するべきであるという事について傾聴した皆さんは再認識された報告になったのではないのでしょうか。

(文責 浦上 純人)

青年経営者会 例会報告

日 時	7月24日(火) 19:00～21:00
会 場	minato
内 容	第一回模擬戦略会議



7月例会より、安井会長が今年度から新しく取り入れたいと考えていた、模擬戦略会議を開始しました。



笹田広報戦略デザイン部長からの趣旨説明の後、第一回は6～7人の2組に分かれて、一人ひとりが、できる範囲から夢まで何の制限もなく自由な発想で、やりたい仕事、やってみたい仕事などのアイデアを班のなかで出して話し合い、想いや意見をまとめました。色々な意見が飛び交いましたが、1班からは、長崎らしいお土産屋さん。内容は踊り町のTシャツ・キャップ・手ぬぐいやキリストのバザーで売られている手作



りクッキーを長崎らしいデザインのガラス工芸品で包んでの販売。

第2班からは、お年寄りから若い人、身体の不自由な方まで、幅広い方を対象とした移動・出張サービス。内容は介護や家の料理・掃除・洗濯の他、買い物や管理など、やっても

らいたい範囲をお客様より聞いて、月額契約で行う。という発表で終わりました。

初めての試みでしたが、皆さん自分の原点を振り返ったり、自社に持ち帰れるような多くの意見や発想が飛び交う等、時間が足りないくらいの盛り上がる例会となりました。

(文責 分部 高)

ダイバーシティ委員会 第10回例会 参加報告

開催日時：7月13日(金) 18:30～20:30 会場：パークベルズ大村 テーマ：外国人雇用の現場から

報告者：(有)金井建設 代表取締役 金井 政春 会員(大村支部)

プライアント(株) 代表取締役社長 橋口 久 会員(佐世保支部)

(株)稲沢鐵工 代表取締役 稲沢 文員 会員(北松浦支部)

リーガルナビ行政書士事務所 代表行政書士 李 泳勲 会員(長崎出島支部)



女性の活躍推進、障がいのある社員の活躍、働きやすい環境づくりを目的に、女性部・障がい者問題委員会の発足から2年、ダイバーシティ委員会として進化した当委員会。今回、「外国人雇用の現場から」のテーマを基に外国人を雇用されている金井さん、橋口さん、稲沢さんの体験、実践されている現場の生の声と李さんから制度の概要の報告でした。

「外国人雇用は当たり前の時代を迎えている。」これは4人の報告者の生の声で得た共通点です。労働人口が減少している現在の日本。特に中小企業では少子高齢化による労働力人口の減少は顕著に表れ、死活問題となっています。

グローバル企業(大企業)では当たり前の外国人雇用。外国人雇用に興味があってもいざ実践するとなると躊躇する経営者が現時点では多数派だと思います。しかし、我々中小企業家もこれからは多様な人材を積極的に活用しようという考え方(ダイバーシティ)に方向転換しなければ、今後、生き残れない時代となりつつあります。

今回の報告で、外国人従業員は日本人以上にハンゲ



リー精神があり熱心に仕事に取り組む事例、半分の期間で技能を修得する事例、さらに日本人と同じ雇用体制、日本人以上にコミュニケーションを密に取り、外国人として分け隔てなく、一人間として家族同様のアットホームな付き合い方を実践し、より良い職場の環境づくりを行う取組の紹介がありました。同友会として人を生かす経営、理念が浸透していれば人手不足を入口に外国人を雇用してもその良さがわかるということでした。

今回の報告で、外国人雇用についての考え方が変わり、大変勉強になりました。又、外国人を雇用するためには、就労ビザ、在留資格などの外国人特有の問題や、「技能実習生制度」などの特殊な労働法の制度を理解した上で雇用しなければならないことも知りました。

皆さん外国人雇用について理解し、有能な人材の発掘、自社の事業展開、発展に役立てましょう！

金井さん、橋口さん、稲沢さん、李さん、現場の貴重な生の声の御報告、有難うございました。

(文責 大村支部 浦郷 学)

2018年度 第1回 新入社員フォローアップ研修 参加報告

開催日時：7月28日(土) 13:30～17:00 会場：諫早文化会館

テーマ：第1部 先輩社員からの事例発表「私のライフライン」 第2部 チームビルディング「タワーをつくろう」



2018年度、第1回新入社員フォローアップ研修が開催されました。記録的な猛暑が続くなか、会員企業9社27名の新入社員の皆様が元気に参加されました。

第1部は、先輩社員から「私のライフライン」のテーマで発表していただきました。昨季はこの発表者の方々が研修を受けていたこともあり、1年ではありますが少しくましくなった姿を見て感慨深いものがありました。発表では簡単に諦めないことや、わからないことは自分で解決しようとせず、同僚や先輩、上司に聞くこと、報連相の重要性等が失敗談なども含めながら語られました。身近な先輩の貴重な体験談だけあって、皆真剣に耳を傾け、その後のアンケートでは自分の今後の行動に役立てたいとする意見が多く見られました。



第2部は「タワーをつくろう」と銘打って、チームビルディング研修を行いました。この研修は、新聞紙を使ってより高くタワーを作っていくというものです。その過程においてチームワークの大切さなどを感じてもらえるものであります

が、そこに長崎ならではのオリジナルルールを設けました。まずチームを10名と5名に分け、それを大企業と中小企業と見立てました。加えて、大企業にはゼロハンテープとハサミを与え、資金力があり設備が整っている状況を作り出しました。それぞれに良い点、悪い点があり様々な気づきがありました。大企業チームが作り出すものは道具の力を最大限に使ったシンプルなものの、言い方を変えれば、結果は出るがアイデアに欠けたものが出来上がっていました。一方で中小企業チームは、少数であることもあり意見がまとまりやすく、それぞれ試行錯誤しながらアイデアに富んでいました。この両者の価値を語る上で重要視したのは、人が生み出す知恵、人間の価値でした。

昨今、様々な環境の変化から、若者の労働感に疑問を持つ声が多く挙がっています。この環境は変えられるものでもないし、若い人たちも怠けているわけではない。しかし、この現状を、仕方のないことだと何の疑いもなく受け入れた場合、一步間違えると失敗から得る貴重な成長に価値を感じず、失敗しないためにその障壁を避けて通ろうとする超過保護社会を生み出してしまふ可能性があります。我々が今、若い人たちに伝えるべきことは、自己成長の価値ではないでしょうか。こういう研修を通して、人として失ってはならない価値観を伝えられる集団でありたいと感じています。

(文責 諫早支部 時 寛)



ダイヤモンドクラブ 総会・第1回例会 参加報告

開催日時：7月31日(火) 18:00 会場：サンプリエール 参加人数：28名

ダイヤモンドクラブは、会暦20年以上の会員・代表理事経験者・現役代表理事で構成されており、現在の会勢はなんと62名！

今回は、10年もの長きに渡り代表理事を務めて下さった松尾相談役の慰労と金井代表理事、中村・山領副

代表理事の就任の御祝と懇談を兼ねて開催されました。

今回も永世司会者の品川さんの名(迷)進行のもと、非常に盛り上がったひと時でした。

金子会長の開会挨拶に続き、初参加5名の方を含む8名の皆さんに「ダイヤモンドクラブ会員章」の贈呈



が厳かに行われました。

懇親会では恒例のひとり一言。今回も皆さんの熱い思いが会場に響きました。

初参加の方からは、「支部ではベテランの方に入っていると思っていたが、今日は若手も若手!」「雲の上の人ばかりというイメージだった」等々。

大御所の皆さんからは、ご自身と会の歴史を重ねて振り返りながら「同友会に入っていなかったら今はない」「『すべてははいかイエス』を学んだ」「事業承継等をはじめ悩みを相談し合えるこのメンバー」等々時間が足りなくなる程の発言が続きました。



締めに入ろうとしたその時、ある方が「ちょっと待った!」と手を挙げられ、「そんなに同友会が素晴らしいというのならなぜ後継者を入れないんですか!」と会場の雰囲気が一瞬にして変わる程の問題提起がなされたのです!これも本音の付き合いができている証拠です。

「我々は現役だ!」の合言葉のもと、全研成功に向け、仲間づくりへの注力が確認され、名残惜しい雰囲気の中、閉会となりました。

(文責 事務局 山田 幸司)

プライアント(株)(佐世保支部 橋口会員)経営計画発表会 参加報告

開催日：6月14日(木) 会場：九十九島ベイサイド&リゾート フラッグス

【参加者の声】※誌面の都合により抜粋

1. (株)智翔館 直江 弘明

社長なしでも動揺なし、社員の皆さん強くしなやかに成長している姿を見せていただきました。共育の成果ここにあり。

2. (株)広告のアクセス 山領 進

愛情あふれる会長、厳しい言葉をなげかけられた矢野支店長の話はとても素晴らしく印象的でした。遅れて登場した社長の流暢な語り口は流石でした。

3. 白山陶器(株) 松尾 慶一

社員さん達が社長不在でも粛々と発表会を進行していく様は、立派と言うか何と言うか、この会社は素晴らしい会社だと感じました。

4. ニコット・サービス(有) 江口 陽一

最後の社長が熱く語られたまずESを上げなければいけないのだ、それがCSに繋がりますの決意が心に響きました。

5. チェンジコンサルティング(同) 宇土 敏郎

発表会の新しい型、理想の型であると思います。(ハプニングは別として)10年ビジョンを、社員の一人ひとりに考えてもらい発表いただいた事は素晴らしいと思います。

6. (有)エムズ 川下 眞文

年に一度の経営計画発表会は会社全員の意識が統一され確認するのに必要なイベントです…の再認識をしました。



7. (有)山崎マーク 山崎 秀平

画一的な会社は、淘汰され個性のある会社が支持されていくと思います。10年ビジョンに関しても、個人のレベルまで落とし込んでいてより成長が楽しみです。

8. (有)菅原産業 菅原 千代枝

一人ひとりの生き生きとしたビジョンに感銘しました。今後自社でも経営計画発表会をしたいと思っています。

9. (株)佐世保福祉 綿川 淳子

橋口さん不在のアクシデントがありつつも、会長以下全員でしっかり乗り切った発表会でした。中々ないアクシデントにしっかり対応されていました。

10. (株)長崎地研 山口 和登

予定通りに社長が居なくても進行したのは素晴らしいかった。

11. (株)村上彫刻 村上 敦子

社長不在の中で始まりました、経営計画発表会でしたが、社員の個人目標発表から今期経営計画発表としっかり進行されていました。これこそ、人を生かす経営と感動いたしました。

12. (株)橋高 橋高 裕季

自社で発表する経営方針発表会とは、カラーが異なり参考にすること、実際に取り入れたいことがあり、参加した甲斐がありました。

13. 長崎県中小企業家同友会事務局 峰 圭太

社員の皆さんが自分の言葉で自信を持って個人の発表をされた姿に強く感動しました。さらに、常務の社員に対する想いも伝わったとても素晴らしい発表会だったと思います。

14. (株)福祉工房K's 豊福 和明

毎年、パワーアップする経営計画書&発表会。今期のKWは3つ有り学ばせていただきましたので実践に繋げて行きたいです。①10年ビジョンを会社だけでなく個々でも成文化することで、将来設計（会社個々）において相乗効果が期待でき大変有意義だと言える。②就業規則（働く環境の指針）と一緒に作成することで、社風を皆で創る姿勢となり正に“人を生かす経営”が確立出来る。③組織を目指すあまり、個をつぶすようではNG、「個を生かす事でさらに組織が強くなる」是非、この3つのKWを当社も目指して行きます。

(文責 経営労働副委員長 豊福 和明)

(福)むすび会(佐世保支部 吉木会員)経営計画発表会 参加報告

開催日時：6月23日(土) 18:00 会場：JAさせばホール

【参加者の声】※誌面の都合により抜粋

1. (株)広告のアクセス 山領 進

経営計画発表会の教科書のような発表会でした。社員の皆さんは、個人目標を発表することにより、自身のやるべき事が、正に明確になられたのではないのでしょうか？また各事業所の方針・目標・取組みなども成文化することにより、より明確になった事と思います。

2. (有)エムズ 川下 眞文

企業が大きくなればなる程に経営計画発表会を開催し社員と統一した意識を共有するのが最良な手法だと感じました。

3. (株)恵比寿組 谷 信一郎

冒頭の理事長挨拶にて「経営計画発表会は自分達の為の発表会なんだ」との言葉が良く表れていた発表会でした。



4. プライアント(株) 橋口 久

手話通訳：貴法人では当たり前の光景だと思うが、当社に置き換えると新たな刺激だった。福祉関係に限らず、未来の企業の在り方だと感じた。

5. (株)村上彫刻 村上 敦子

第1回目とは思えない完成度の高い経営計画発表会でした。しっかりとした経営計画書、そして社員皆さまでのしっかりとした事業毎の発表・個人目標の発表も

大変素晴らしかったです。

6. (株)ひなた 小川 彩

今日は本当におめでとうございます。また、大変貴重な場にご呼んでいただき有難うございます。私自身同じ福祉の業界で様々な壁にぶつかっております。発表会の中で1つ1つが今後の参考になりました。

7. (株)彩 安井 麻依

特に関心を持ったのは各事業所の明確な目標（数値目標）が発表され、組織の末端にまで目標設定を促されていたことは“組織の力”という観点より素晴らしい取り組みだと思います。

8. (株)おだ建築 小田 尚美

職員名簿で、年齢と勤続年数の積み上げグラフの作成で年数が増えるとグラフも上がっていくが、それに

伴って自分のスキルが上がっているのか…と目で見える形であれば、自分の実感がより理解できるととても良い事だと思いました。

9. (株)福祉工房K's 豊福 和明

記念すべき第1回経営計画発表会は、31年の(福)むすび会の歩み(実績)と、経営計画書&発表会の伝道師村山理事長の力強いタッグという相乗効果がありと感じるものでした。一人ひとりのスキルはしっかりされているが、それを皆で共有し同じ方向へと向かって行く本日の発表会は、正に法人にとっても働く一人ひとりにとっても第2・第3の創業スタート（更なる強み）となったようでした。学ぶべき事・実践すべき事の凝縮で、当社でも真似すること満載でした。ご案内いただき誠に有難うございました。

(文責 経営労働副委員長 豊福 和明)

2018年度 全国事務局員研修会 参加報告

開催日：7月18～20日(水～金) 会場：福山市ものづくり交流館、まなびの館ローズコム(広島県福山市)

1日目の中同協の内輪次長の報告で特に印象に残った部分として、事務局は運動体として常に自己変革を続ける必要があるということとプロパーである事務局は継続性を持ち、同友会運動を保証するものであることを学びました。常に自己変革を続けていくためには、その仕組みづくりを行うことが重要であると感じ、個々の事務局員は、同友会運動の「主体者」として自ら変化するだけでなく、相手も変えることができるいわば「触媒」の役割を求められていることを理解しました。

中同協の荻原専務幹事の報告では、戦後同友会が創立され、それぞれの時代背景に応じて理念が形成されてきたこと、そして今後の同友会運動の発展形のひとつとして小学校や中学校での同友会の講座やさらには教育課程へ組み込むことを挙げられ、そのためには、事務局が同友会運動を維持・継続するだけでなく発展・拡大させる役割を担っていることを自覚し、会員と共に学びを深めて実践につなげていく必要があると感じました。

2日目の広島同友会の本田事務局員の報告では、特に事務局員として会員に対して小石を投げる（問題提起をする）こと、言うべきことは言い、行ったことに対する総括をすること、仕事のみならず社会問題等へのアンテナを日頃から張っておくこと等、先輩局員ならではの視点での学びを得ることができました。

その後の2社の企業訪問では、社員の皆さんが生き生きと楽しく仕事をされているのが伝わってきて、「よい会社」がつくられていることを実感しました。そし

て、同友会に入って様々な問題を抱えていた会社を存続させるために経営者としての意識や社員との関係性を変えていき、同友会の学びを実践することで社員の意識まで変わり、会社の発展につながってきたことを(株)オーザックの岡崎さんと日鐵工業(株)の能登さんの報告から学び、改めて同友会の素晴らしい一面を見ることができました。

3日目の広島同友会の井谷事務局員からの報告では、入局してからの様々なエピソードや反省を赤裸々に語っていただき、それを踏まえて会員と事務局員との関係性や事務局員自身がどんな事務局員になりたいかはそれぞれが自分で考えてつくっていくものという部分が非常に印象に残りました。私自身、今後同友会のことについてもっと学びを深め、会員のみなさんとの関係性を深めていきながら、理想とする事務局員像をつくっていきたいと思います。

この3日間は同友会の理念や歴史が日々の仕事にどうリンクしているか考える機会となり、また、各地同友会事務局の皆さんの現状を知り率直な意見交換をすることができた非常に有意義な研修となりました。研修開催にあたってご尽力いただいた中同協事務局の皆様、豪雨災害で大変な状況の中に対応いただいた広島同友会事務局の皆様、企業訪問にご対応いただいた(株)オーザック、日鐵工業(株)の皆様、本当にありがとうございました。この学びを生かし、事務局員として一人の人間としても成長していきたいと思います。

(文責 事務局 森川 健吾)

事務局企業訪問

今回は北松浦支部の(株)稲沢鐵工 稲沢文員さんを訪問しました。



【「階段」という製品】

1955年稲沢鍛冶屋としてスタートした稲沢鐵工は稲沢さんの父親が鍛冶屋として独立したことから始まります。しかし若くして他界し、母親、そして稲沢さんがその想いを受け継ぎ今日まで至ります。

1997年、それまで鉄骨工事中心の業態から徐々に軽量形鋼加工にシフトしていた時、ある出会いから階段工事の可能性を感じます。「この先どうなるかわからなかったけど、やるしかないと思った」と当時の決断を振り返る稲沢さん。ステップの幅や高さなど一つひとつが異なる階段の設計。しかも仕上塗装方法は未知の技術。試行錯誤を繰り返しました。他社との差別化のために、他社の組立式螺旋階段特許技術を取り入れて九州・沖縄地区総代理店となり、売れる商品の幅を持たせました。

顧客の要望に応えながら、少しずつ製品のデザイン性、種類、製品精度を上げ東京での展示会にも毎年参加し認知度を高めています。

商業施設や一般の建物、住宅に普通にある階段。下と上をつなぐ手段の一つですが、稲沢鐵工の階段は採用する工務店や直接発注される施主の心を驚かします。誇張せずしかし埋もれず空間と融合するそのデザイン性は、人を至福に導く階段であり、憧れを演出しています。ニッチな製品かもしれませんが、確実に存在し必要とされる住空間アイテムです。

【経営者としてすべきこと】

24歳で帰郷した時3名だった社員数は、稲沢さんが代表取締役となった1999年、14名に増えました。それから約20年。今があるのは「学び」のおかげだと稲沢さんは話します。「“つもり”ではだめ。経営の仕組みを学び、あせらず3年後、5年後を見据えてあるべき姿を創る仕組みをつくることが大事。そして数字を理解し、強くなること。会社の成長は社員の



成長とシステム」。これは同友会に限らず様々な勉強会に積極的に参加し、実践してきたからこそ到達した稲沢さんの一つの信念です。インドネシア研修生の受け入れは2007年から継続し、ダイバーシティ経営も実践しています。

【経営理念と今後のビジョン】

6月末、2018年度の安全大会が開催されました。その中には決算推移（損益実績）や数値目標が事業別に詳しく記載されています。もちろん会社として新たに取る仕組みも記載されています。そして最後に10年ビジョンがありました。5番目の項目に「社員が育ち、社長引退 海外移住」と書かれていました。

「本当は50歳で引退して知らない土地の訪問や外国に行つてのんびりしたかった」と笑顔で話す稲沢さん。50歳で叶えられなかった海外移住が、もう少し先に延びたようです。

これからの稲沢鐵工を担う社員の皆さん、また次代を担う北松浦支部の会員の皆さんに、今までの稲沢さんの学びと実践を伝えるために、おそらく先代達が「もう少しだけ頑張らんね」と言っているのではないのでしょうか。

<経営理念>

我社は、挑戦者（チャレンジャー）

私達は、常にお客様の満足と信頼の獲得を目指し、挑戦し続けます。

私達は、社員一人一人が力をあわせ働き甲斐のある会社を目指し、挑戦し続けます。

私達は、自らのビジョンを持ち行動し、自らの可能性に挑戦し続けます。

私達は、より優れた技術に挑戦し、社会の発展と社会の繁栄に貢献いたします。

<基本方針>

For the Customer

「お客様の使う立場・買う立場」で、お客様が求めている一番大事な要素「物」「こと」を実現することに徹する。

(株)稲沢鐵工

住所：〒859-4773

松浦市御厨町上登木免 325-1

TEL：0956-75-1187 FAX：0956-75-1491

(文責 峰 圭太)

新入会員の皆さんです < 7月入会 >

(敬称略)

< 入 会 >

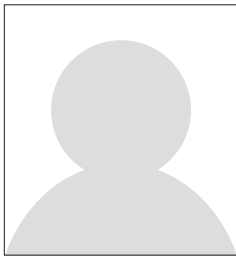
支 部 名	長崎出島支部		
氏 名	しもがま ひさひこ 下釜 寿彦		
企 業 名	(有)システム空調		
役 職 名	代表取締役		
企 業 住 所	〒854-1112 諫早市飯盛町開622-1		
T E L	0957-48-0669	F A X	0957-48-1853
業 種	空調・換気・ダクト設計施行		
企 業 PR	社訓 「より良く、より早く、より安く」をモットーに社員一同日々精進しております。		
スポンサー	中村 こずえ		



支 部 名	大村支部		
氏 名	さかい ゆう 坂井 由宇		
企 業 名	らくだ診断舎		
役 職 名	代表者		
企 業 住 所	〒856-0837 大村市西本町533		
T E L	0957-50-0540	F A X	0957-46-5580
業 種	シロアリ駆除保証		
企 業 PR	新築工事・予防工事や駆除、シロアリのことなら何でもお気軽にご相談下さい。ハチ駆除、害虫駆除もやっています。		
スポンサー	宮崎 洋輔		



支 部 名	諫早支部		
氏 名	どい かつのぶ 土井 克信		
企 業 名	旬味なごみ		
役 職 名	代表者		
企 業 住 所	〒854-0016 諫早市高城町6-17		
T E L	0957-22-6611	F A X	0957-22-6611
業 種	飲食業		
企 業 PR	夏でもおいしいモツ鍋が食べられる居酒屋です。刺身、肴、一品料理の他、焼酎、日本酒には力入れています。		
スポンサー	山口 大輔		



※本人のご希望により写真は掲載しておりません。

支 部 名	島原支部		
氏 名	しみず たもん 清水 多聞		
企 業 名	(株)ケーブルテレビジョン島原		
役 職 名	代表取締役		
企 業 住 所	〒855-0807 島原市白土町1111		
T E L	0957-63-3456	F A X	0957-63-3575
業 種	CATV事業		
企 業 PR	創業以来、CATV・インターネットが主な事業でしたが、昨今はフリーペーパーの発行や防災・観光アプリの開発にも力を入れています。また昨年から、NTT西日本とコラボし、「ひかりTV with カボチャテレビ」と題して、新に光テレビサービスをスタートしました。時代の変化に迅速に対応し、常に新しいことにチャレンジし続ける会社です。		
スポンサー	佐原 俊樹		



支 部 名	島原支部		
氏 名	はやしだ まさや 林田 真弥		
企 業 名	ダイニング味遊		
役 職 名			
企 業 住 所	〒855-0044 島原市中町809		
T E L	0957-63-6656	F A X	0957-63-8839
業 種	飲食業・物販業		
企 業 PR	環境に恵まれた地域、海と山に囲まれた火山都市(島原)良質の湧水が街中から湧き出て鯉が泳ぐ街としても有名な地域です。また、農業・水産物・畜産業が盛んな地区です。その良質な地域産物を販売や調理加工し販売致しております。		
スポンサー	川上 貴弘		



支 部 名	佐世保支部		
氏 名	いまざと のりこ 今里 紀子		
企 業 名	(株)M・K・G 就労支援事業所Link		
役 職 名	代表者		
企 業 住 所	〒857-0132 佐世保市松原199-4		
T E L	0956-80-1302	F A X	0956-80-1302
業 種	障がい福祉サービス事業		
スポンサー	関 ひろみ		



V・ファーレン長崎



応援マツト

ダスキン栄進 電話 095-823-7633

瀧川 隆 会員 (長崎出島支部)

広告募集

< 4cm x 9cm >

複数月 割引	6ヶ月	12,000→10,000
	4ヶ月	8,000→7,000
	3ヶ月	6,000→5,000

8月理事会 報告

8月2日(木) 長崎ロイヤルチェスターホテル 出席18名 欠席9名

※今回は、昨日の全研実行委員会に引き続き、中同協 平田事務局長にご出席いただきました。

仲間づくりについて

- 1)入会・退会・取下げの承認ー
6名の入会、4名の退会、1名の取下げを承認
- 2)仲間づくりの進捗状況・具体的活動状況について
原田仲間づくり委員長総括(抜粋)
700名をなかなか越えられない現状がありますが、各支部仲間づくりのご協力ありがとうございます。仲間づくりは息が長い活動になりますが全研を1,000名で迎えるという目標に向け、よろしくお願ひします。また8月6日は仲間づくりの日、増強デーです。各支部の仲間づくり委員長だけが孤軍奮闘するのではなく、支部や県の取り組みとしてフォーカスし、当日の活動をお願いします。

協議・承認事項

- 1)リーフレット活用についてー浦郷情報広報委員長(欠席のため森川事務局員)
各支部ならびに三役会からの意見を基にした情報広報委員会からの提案を承認
- ・入会申込書セット等及びその他必要な部数を事務局に保管。残り部数を全会員に広報誌と共に郵送し会員 事業所の窓口(受付)に置いてもらう。→5部程度を検討
 - ・例会時、ゲストに渡すだけではなくリーフレットの内容説明を行い入会用ツールとして活用。
 - ・各支部必要部数は例会前に支部長もしくは例会委員長から事務局へ報告していただく。
- 2)西日本豪雨災害支援金対応についてー山田事務局長
- ・会からの拠出金額の検討(三役会案) 会員数×500円
→上記案を承認(振込(5件)と各支部例会時徴収分の合計金額244,100円と合算して振り込む)

中同協平田事務局長より被害状況等についてご報告いただきました。

報告・連絡事項

- 1)7月 県本部・支部・委員会等の活動状況について
＜委員会等＞

経営 労働	・経営指針実践セミナー2018の開催 7/14 No1 開講 16名参加/20名申込 ・県委員会活動、支部委員会活動の活発化 ・経営労働委員会活動PR(経営者塾)のため、各支部役員会、例会に参加
共有	7月28日(土) 第1回新入社員フォローアップ研修開催/諫早文化会館/参加29名 ＜前半＞ 先輩社員からの事例発表 入社から現在までを「私のライフライン」として (株)富建 一鈞 絢亮氏・ 九一庵食品協業組合 児玉あかり氏 (株)智翔館 増田 杏子氏 3名の発表で先輩社員達が悩んだこと、立ち直るきっかけ等を学ぶ ＜後半＞ チームビルディング「タワーをつくろう」 チーム10人と5人に分け 大企業と中小企業に見立てて新聞紙でどれぐらい高くタワーを作れるか、高さを競う。 大企業の良さ、中小企業の良さを体験してもらう。 大企業のときは、傍観していたが中小企業の時は意見を出して行動できた。 などの意見があった。
政策	■7/24 山口准教授、長大生との第2回意見交換会@事務局長大側)山口先生・学生6名

同友会側)時・宮田会員・菅原会員・山田局長
(まとめ)先月の第1回目の意見交換を受けての2回目。県内企業を調査訪問すべく①調査表②調査方法③調査対象企業について提案を受けた。よく練りこまれた内容だったが、いくつかの指摘を返して次回8月7日の第3回意見交換会で道筋をつけると決定し終了。これらの目的は「同友会会員企業の中で平均的なサンプル企業を抽出し、個別具体的調査を行うことで中小企業のそして地域の全体像を捕捉する。そこで炙り出された課題問題点の解決に向けて次のアクションを起こしたい」「若い感性と、知らないからこそ沸き起こる疑問などを率直に質問としてぶつけることで見えなかった企業や地域の問題が明らかにすること」「今まさに社会に飛び立とうとする若者が世の中のリアルを体験することで良きウオーミングアップとなること」と考えています。
8月下旬～9月中旬にかけて、上で選定した企業へと学生調査隊による訪問調査を行いますので、当該企業に選定された場合はご協力願ひます。

情報
広報

7月30日(月) 19時00分～シーハットおおむらにて委員会を開催。
参加者:浦郷(大村)、山口(浦上)、前田(諫早)、府川(佐世保)、事務局 森川 計5名
1. 広報誌 編集会議
2. ホームページについて
3. e.doyu 利用
・利用率は59パーセントに推移している(前回は62%)
・自身返信率の向上→自主的な登録の呼び掛けを行う。
4. その他・情報交換
※リーフレット活用について検討

仲間
づくり

7月14日(土) 委員会開催
8月6日(月)開催の県下一斉仲間づくりの日に向けた各支部の取組状況の確認
各支部で差はあるもののそれぞれの支部で取り組みについて検討いただいている。

ビジョン

7月30日(月) 第4回委員会を開催。
・本多例会委員長・山口仲間づくり副委員長にご出席いただき、両委員会の第5次ビジョンについて協議を行い、決定しました。
第5次ビジョン確定
＜例会委員会＞
①例会での会員の経営体験報告が、同友会の三つの目的に沿って、現状の分析と提言を具体的な数値を用いて行っている
②グループディスカッションでは、各々の経営課題の克服に会員同士が知恵を出し合っている
③常に例会の出席率が50%以上、返信率が100%になっている
＜仲間づくり委員会＞
①会員数が1,100名を超えている
②退会率を5%以下にする
③退会率、退会までの期間、ゲストの入会率などのデータを把握している
④他の委員会と連携し、同友会の魅力を発信している
・5次ビジョン到達への「8つの柱」について、下記の2つの柱を協議・決定しました。
③ブロック化に向けた取り組みが検討されている。(特別委員会設置)
④会員の要望相談に応えられる組織になっている。(特別委員会設置)
・昨年行った「第4次ビジョン進捗アンケート」を参考にして、内容を一部修正し、第5次ビジョンが決定した委員会へ配信・検証する事となりました。 ※12月より検証予定

ダイバ
シティ

7月13日(金)に第10回例会をパークベルズ大村に開催しました。
外国人雇用に感心のある方に多数集まっていたいただき、非常によい例会になりました。
もっと詳しく聞きたいとお声もあり、今後も繋げていきたいと思っています。

共同 求人	■7月30日、多良見公民館において、「第3回共同求人委員会」を開催。委員9名、事務局1名が参加。 ・各支部活動報告：各支部で共同求人人をテーマとした例会を開催できないか検討してもらった結果報告があった。なかなかすぐには難しい結果だったが、諫早8月例会を成功させ、そこから県の各支部例会へ広げる流れをつくることで合意した。 ・県4委員会活動報告：共同求人委員会は、4委員会活動のプロデューサー的立場であることから、毎回委員会で活動報告をしている。今回は、「長崎同友会経営者塾」講座パンフレット作成の進捗状況を共有した。 ・5年ビジョン策定：ビジョン委員会に提出する素案を決定。各支部の7月委員会で検討した内容を共有し、協議。以下の3点を共同求人委員会5年ビジョンの素案とする。（1）合同企業説明会への参加企業数（長崎同友会認定制度クリア企業数）200社、（2）合同企業説明会参加者数1000名（新卒、中途、特別支援学校、高齢者、外国人など）（3）内定者数〇%（数値目標は資料を分析したのち協議する） ・諫早支部8月例会シミュレーション 会議の時間の後半を、シミュレーションの時間に充てた。報告者は委員長の橋口、座長は諫早支部共育・共同求人委員会委員長の時会員。「共同求人を知ると同友会がわかる」「共同求人委員会の役割」「各委員会の役割」など、「選ばれる企業づくり」を核として、各委員会がどのように連携しているのか、その連携が強固となることが、自社と長崎経済、日本経済の発展に繋がる内容となった。 ※当日資料の経営者塾チラシの説明 仲間づくりセットにも同封しているため、活用をお願いします。また今後支部や委員会で開催してほしい勉強会などの案があれば随時4委員会までご連絡をお願いします ※宇土委員長より経営者塾は半期ごとのスケジュールで情報を開示していく旨の補足説明 ※菅原委員長より7月の例会、11月の例会内容を補足説明
	7月12日(木)事務局にて役員会を開催。24日(火)長崎駅前MINATOにて7月度例会を開催しました。例会については青年経営者会独自企画の「模擬経営戦略会議」を開催。15人程度の参加でしたが2グループに分かれ50分間のディスカッションを行い「今長崎にとって何が必要とされているか」「海外、東京などの新たなビジネスモデルは？」など先ずは根本的なマーケティング会議を行い、そこに自分たちが「やりたいこと」や「やりたかったこと」などを当てはめていき活発に意見を出し合う大盛り上がりの例会となりました。

- 2)役員研修会について(9月8日(土))－中村副代表理事
- 先日シミュレーションを受け、非常に素晴らしい内容だと感じた。役員だけでなく一般会員にもぜひ参加いただきたい。全研に向けてのグループ長研修という位置付けではあるが通常の例会がよりよいものになるためにも多くの動員をめざしたい。8月の役員会や例会のタイミングで役員の出席は必須という前提のもと一般会員への呼びかけをよろしくお願いします
- ※各支部目標を確認
- 長崎浦上／10、長崎出島／9、大村／7、諫早／12、島原／10、佐世保／15、北松浦／9、五島／5 合計／77
- 3)経営フォーラムについて(10月26日(金))－村上実行委員長(前回理事会までの承認事項)
- ・開催趣旨・メインテーマ「変化と挑戦こそが、中小企業の成長を後押

- しする原動力！！」
- ・サブテーマ「日本の西から中小企業の元気を全国へ！！」
- ・開催場所(九十九島ホテル&リゾート フラッグス)
- ・記念講演講師
- (徳武産業(株)十河 孝男(そごう たかお)氏)(香川同友会)
- ・スケジュール ・参加費－6,000円(一律)
- ・目標－会員・ゲスト320名、来賓20名 ・予算案
- ・バスのルートと支部別目標については役員会で協議後、役員会翌日に事務局への報告を依頼
- ・今後の詳細については実行委員会一任とし、都度理事会で報告
- ・分科会報告者
- 第1(人財) 阿萬 英一朗会員 (株)アーム(宮崎同友会)
- 第2(挑戦) 綿川 淳子会員 (株)佐世保福祉(佐世保支部)
- 第3(変化) 吉澤 健会員 (株)ヤマハマリン西九州(長崎浦上支部)
- 第4(地方創生) 時 忠之会員 (株)大幸企画(大村支部)
- 見学分科会 宮共生会(定員28名 ・特別なタイムスケジュール(10時発))
- (今回報告事項)
- ・チラシ完成・e.doyu案内済－確認
- ・来賓について－実行委員会一任の範囲内のためリストを確認

- 4)例会について(更なる充実をめざして)－本多例会委員長
- ・例会内容についてのヒアリング
- ・グループディスカッションマニュアル(最新版)について→例会時読み合わせを依頼

- 5)第49回中小企業問題全国研究会について－松尾実行委員長
- ・2019年2月21・22日(木・金)メイン会場 ホテルニュー長崎
- ・長崎同友会で2分科会を担当(「ダイバーシティ」と「政策」)

- 6)中同協 主要行事の参加状況確認

- 7)活水大学との取り組みについて－橋口共同求人委員長
- ・長期(2ヶ月)インターンシップの受け入れ協力の依頼あり
- ・学生の受講講義に会員の講師派遣の依頼あり

- 8)全国事務局員研修会 参加報告－森川事務局員

- 9)7月25日(水) 第1回 長崎県サービス産業生産性向上推進協議会参加報告－山田事務局長
- (時政策委員長の代理出席)(時委員長－長崎県サービス産業生産性向上協議会委員就任)
- ・セミナー動員の協力要請等

- 10)3ヶ月会費滞納者について－なし

- 11)その他報告
- ・菅原ダイバーシティ委員長
- 長崎県障害のある人もない人も共に生きる平和な長崎県づくり推進会議委員就任中

※次回開催確認 9月6日(木) つくば倶楽部

会員動向

- 企業住所等変更
- 印 末 晃 会員 (長崎浦上支部) 新TEL 番号：095-894-9080 山 口 哲 也 会員 (長崎浦上支部)
- 新住所：〒851-2211 長崎市京泊3丁目1929-20 新FAX番号：095-894-9081 新住所：〒850-0875 長崎市栄町1-25 長崎MSビル6階

会 員 数 (8月1日現在)

	浦上	出島	大村	諫早	島原	佐世保	北松浦	五島	合計
目 標	150	130	125	100	100	200	55	45	(1000)
期 首	113	105	87	79	66	160	43	31	684
現 在	111	102	90	81	67	166	44	31	692

退 会 者 (敬称略)

会 員 名	会 社 名	支部名	入会年月
西 山 浩 之	しんかん社会保険労務士事務所	長崎出島	2011年12月
宮 川 孝 昭	(同)MKインターナショナル	島 原	2016年 5月
上ノ原 宏 二	上ノ原製茶園	佐 世 保	2014年 8月
山 下 輝 昭	朝日I&Rワークス(株)	佐 世 保	2011年 3月

9月例会案内

他支部の例会情報は、ホームページや e.doyu から閲覧・参加申込可能です。

●長崎浦上支部

日 時 9月18日(火) 18:30～21:00
会 場 長崎新聞文化ホール アストピア
テ ー マ 石油業界の小話
報 告 者 浜本石油(株) 代表取締役
浜本 義文 会員

日本を支えるライフラインとしての石油業界のしくみと、私たちの日常生活に身近なガソリンスタンドの将来の動向について、業界に身を置いている立場から、わかりやすく解説していただきます。

●長崎出島支部

日 時 9月26日(水) 18:00～19:00
会 場 サンプリエール
テ ー マ 未定
報 告 者 いろはや(株) 代表取締役
中山 実津雄 会員(島原支部)

●大村支部

日 時 9月20日(木) 18:30～21:15
会 場 長崎インターナショナルホテル
テ ー マ 社員さんが誇りを持てる会社づくり
報 告 者 (株)中村工務店 代表取締役社長
中村 鉄男 会員(長崎浦上支部)

創業60年、住宅リフォーム売上ランキングにて長崎エリア11年連続1位の「すまいるリフォーム」中村工務店。倒産したどん底の時代から不屈の精神で這い上がり借金を完済。現在は社員数30名、職人20名で18年連続黒字経営を継続中。逆境から復活の裏には、売上至上主義から利益至上主義、そして四方良しの【ありがたい経営】に基づいた他社が真似できない戦略と戦術があります。そんな中村さんの取組についてご報告いただきます。

●諫早支部

日 時 9月19日(水) 15:30～20:00
会 場 長崎ウエスレヤン大学
テ ー マ 社内コミュニケーションの活性化
～私が、こころがけていること～
報 告 者 (株)九州ガスホールディングス マネジャー
上野 辰一郎 会員

なぜ今、職場にコミュニケーションが必要なのか？具体的に、何をどうすれば良いのか？自分も、会社も、わくわく上昇する方法とは？多国籍大学生の立場から、経営者の立場から、みんなで一緒に考えてみましょう。

●島原支部

日 時 9月27日(木) 19:00～21:15
会 場 HOTEL シーサイド島原
テ ー マ グループディスカッションの進め方と
e.doyuの使い方講座
報 告 者 未定

●佐世保支部

日 時 9月21日(金) 18:30～22:40
会 場 アルカス SASEBO 3F 大会議室
テ ー マ 私の履歴書(独立した経緯)
報 告 者 (株)戦略営業コンサルティング 代表取締役
永吉 秀行 会員

本年独立するまでの経緯。前職の保険会社は、お客さんを持って出る事が出来ない。0からのスタートなのに何故独立したのか(独立できたのか)。同友会や様々な方との出会いがきっかけとなった事などを報告していただきます。

●北松浦支部

日 時 9月20日(木) 18:30～20:30
会 場 サンパーク吉井
テ ー マ (有)住徳水産の歴史と10年ビジョン(仮定)
報 告 者 (有)住徳水産 取締役
住徳 一洋 会員

一洋(かずひろ)さんの祖父の代から続く養殖業、3代目として家業に入ったものの、今まで会社の今後を真剣に考える事が少なかったと言う住徳会員が、発表を機会に、自社の歴史を学び直し、自分なりの10年ビジョン作りに挑戦し発表していただきます。

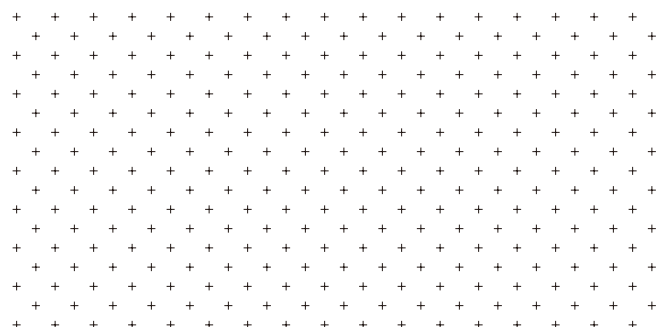
●五島支部

日 時 9月28日(金) 18:30～21:00
会 場 観光ビル はたなか
テ ー マ 洋菓子に学ぶ【伝える事】の大切さ
報 告 者 (株)サンミシェル 代表取締役
萩田 実 会員(長崎出島支部)

新上五島町で生まれ15歳で島を離れ下宿をしながら高校進学。高校卒業後、様々な職業を経験され、ある事がきっかけで全く経験のない洋菓子の世界へ。素人から新たな業界へ足を踏み入れ、どのように問題に対処し解決してきたのか？「人生、どんなきっかけでどのようにも変わるのか…」これまでの人生の転機を振り返り、お客様に感動を与える日々の進化秘話やこれからの夢についてもご報告いただきます。

●青年経営者会

日 時 9月25日(火) 19:00～21:00
会 場 未定
内 容 模擬戦略会議



第25回 経営フォーラム

in SASEBO

テーマ

**変化と挑戦こそが、
中小企業の成長を後押しする原動力!!**

2018年
10月26日(金)

時 間: 13:00~20:30(受付 12:00~)

会 場: 九十九島ペイサイド ホテル&リゾート フラッグス

参加費: 6,000円(懇親交流会費含む)

日本の西から
中小企業の元気を全国へ!!

中小企業経営者の集い
共に学び考え共に語り合おう!



当日のプログラム

12:00	受 付	付 会
13:00~16:00	分 科	会
16:30~17:00	全 体	会
17:00~18:30	記 念 講 演	
18:45~20:30	懇 親 交 流 会	
20:30	閉 会	

見学分科会タイムスケジュール

10:00	出発(9:50 フラッグス集合)
10:30~	坊主珈琲
11:30~	わらびの里/昼食(井当代実費)
13:00~	ごちゃまぜ(報告)
14:00~	グループディスカッション
15:20~	ごちゃまぜ出発(バスの中で発表)
16:00	会場到着

長崎県中小企業家同友会
☎ 095-822-0680

※詳しい情報は下記ホームページへGO!!
<https://doyu-sasebo.jp/>

第25回経営フォーラム

検索

